

平成21年度第6回多摩市公民館運営審議会議事録  
(要点)

日 時 平成21年11月13日(金) 午後7時～9時  
場 所 永山公民館4階 視聴覚室  
出席者：8名  
欠席：1名  
職員：6名

1. 議事録署名委員 委員

2. 内容

(1) 事業進捗質疑

- ①主催事業進捗状況……資料1
- ②施設別使用状況……資料2
- 特に質疑なし -

事務局 ちらし(当日配付)は1-1 社会起業家講座, 12/11(月)映画上映と講演会。裏面、4-17 経済セミナーは12/5・12・19(土)に3回講座を実施する。

事務局 TAMA シネマフォーラム, 第19回映画祭を11/21(土)～29(木)で開催する。

(2) 議事

①答申案作成

資料：一答申案(案)－2009.22.04 修正版

「地域のかでまちの夢を実現する公民館」のあり方について

資料：第5回議事録(要点)

委員長 議事に入る。「3. 公民館事業(社会教育事業)について」  
公運審メンバーとしては、いろんな視点からいろんな意見を反映させやすいところなので、もう一度各委員へ宿題を分け与えたい。

11P. 3のところは私が書いたものを付け加え、「はじめのリード」も膨らませている。

「(1) きっかけをつくる」ところでは、具体的なもの、日頃の仕事とか活動する中で閃かれたら出して欲しい。12P. 7行目(\*以下は公運審メンバーの提案に期待)からの事業は具体的にどういうものがあたらいいのか。

次に「(2) 学び深める」(\*以下)3行は「はじめのリード」へ入れることで書いた。

前回の議事録(要点)を順番に見ていく。

○「IT 装備」は、峰岸副委員長にその方向性について骨子を書いて欲しい。

○「集う」と「学ぶ」では、鈴木委員・宇都木委員から言葉の定義で付加価値について議論があった。

○「ボランティアセンターでつなげることを意識した事業」とは、松尾委員に具体的な

事業を差し支えない程度に書いて欲しい。

- 「コミュニティセンターと公民館の連携」では、下田委員に具体的な投げ掛けがあったら考えて欲しい。
- 学んだだけで終わっている人が多いという厳しい意見があった。「もしも地域に帰って何かをすることで睨むのであれば、初めからリーダー養成講座というか実践的な事業を作ったほうが良い」と書いたが、そういう具体例として何かあったら出して欲しい。
- 「コーディネート（育成）」では鈴木委員から多摩ドリームオーケストラの事例紹介があった。コーディネートのところで、出来ていることの事例で載せたい。
- 5P最初の峰岸副委員長の意見は、このまま何処かへ入っていく。
- 高橋貴委員から「ヘルプゼミ」について出された。なかなか地域に戻らないという問題提起を書いたが、実現できない例で挙げたかった。
- 鈴木委員から「学校側を補う人材が必要である。趣味等で一芸に秀でてる方を公民館から紹介する」ということはコーディネートに入る。

委員 公民館が人材バンクを作れば手掛かりが得られる。（公民館の仕事ではないかも知れないが）。自校では学校の人材バンクを作って、実習時に声を掛けると手伝ってくれる。中には登録していても声が掛からない人もるので、年間行事計画と必要な人材調整を取るところで行き違いが生じる可能性がある。

委員長 学校と地域とを考慮して、人材に関するコーディネートで公民館とつながるものを書いて欲しい。

事務局 多摩市人材バンクがあって、市民は市民活動情報検索サイト（市民活動情報センターHP）、冊子（同じ内容）で検索できる。  
ただし、答申に盛り込む場合には公民館と絡めて、公民館が介在する中で地域にどういう人材がいるのか具体的に書く。

委員 そういうシステムがあることがどれだけ周知されているのか。公民館とは直接関係はしていないのか。

事務局 市民活動情報センターは3年経った。個人情報掲載は1年足らずである。公民館でその人材登録はしていない。

委員 特に取り上げる必要はない。

委員 通り一遍のデータしか載っていない。情報検索したときに、実際にキャリアがどうか、どのような履歴があるかが見えるようになって、人材バンクそのものが奥行きを持っていないと機能を果たさない。情報公開の問題があるのでどこまでやれるのか。

事務局 公民館が持っている人材情報は一般市民だけではない。NPO、講座で呼んだプロの講師

等、公民館と接点があった方が蓄積されている。十分に活用できる情報である。

委員 公民館が人材バンクを活用して、人材探しをしているか。

事務局 今迄のところではない。

委員 公民館のネットワークから人材バンクへの登録斡旋はしていないのか。

事務局 十分ではない。

委員 いろんなネットワークが細かなデータを含めて整理するにしても、蓄積と活用とが動いていかないといけない。公民館でそういう提案ができれば一つの方向だと思う。

事務局 多摩市人材バンクは市民バンクという切り口があって、生業にしている人は載せていない。公民館の答申からは離れ過ぎる。

委員長 前回議事録を見た範囲では以上であるが、高橋俊委員が書かれている中で「公民館に特化して考えるときにこれが出来ていない」というお叱りが多かった。「こうすれば…」といった妙案はあるか。

委員 すぐに出来ること、出来ないことは区別しなければいけないが、こうやった方がいいと出したつもりである。

委員長 公民館事業として特化したときに少し入り難いと思った。答申のどこに入れたらいいかを検討して、もし、出来てなければ、どうしたら出来るかを赤字で入れて出して欲しい。宇都木委員の提案は2つとも子ども居場所である。

事務局 この意見は答申書7P、現状と課題の中で(4)放課後の子どもの居場所の原文が宇都木委員の書いた第1パラグラフである。第2パラグラフは書き換えたらという内容である。

委員長 現状のところだが、具体的な事業へどう発展させるかは考えないといけない。最近は学童クラブ以外に放課後子ども教室がある。公民館がどう関わっていくか。

委員 すごく難しい。

委員長 「コーディネート」に入るが、つながり先が学童クラブ・児童館があった。

委員 これも市長部局の子ども青少年部である。諏訪小学校がコーディネートして教育振興課、三つの大学、NPO法人が集まって動き出すところである。それに地域の人材がキッズカフェ(市の補助金をもらって子ども専用の夕飯を食べさせる)を加えたらと言ってきた。どこが所轄なのか悩んでいる。

委員長 公民館が入ることはどうか。

委員 公民館はちょっと違う。教育振興課とか子ども青少年部と教育委員会と関連する部局に任せた法がいい。

委員長 特に抜けている世代、若者・勤労世代は利用年齢としては少ない。

事務局 利用が薄い世代は、小中学生を別にすれば高校生から現役世代、特に40代までの男性。20代であれば女性が多い。家庭を持つと子育て支援講座、主婦業になると環境のところで関われる方がいる。10代後半から20代までの男女、男性は50代までは薄い。

事務局 演劇フェスティバルは大学生から30代前後の人が活動している。ただ、自分達の活動の一環として、公民館は主要な活動場所であって、公民館の他の主催事業・講座では参加者が少ない。

委員 学ぶ人を支える人も公民館へ来る人と考え、[保育室]は人の集まるきっかけができる。学ぶのがメインの人、支えるのがメインの人、結果として幅広い年齢層、幅広い職業の人が公民館と関わっていく。お母さん同士の関わりで、育児ネットワークのミニチュア版ができれば公民館機能の一段階は果たせる。

委員長 是非、書いて欲しい。保育室を担当している職員はどうか。

事務局 毎月1回保育室開放デーをやっている。今年からは保育園に呼び掛けをして簡単な講座とか、子育て支援相談をして、「つなぐ」きっかけづくりをしている。

委員 そのイメージである。

委員長 サポート隊がボランティア的に関わってもらおうという発想はどうか。

事務局 例えば、食育セミナーの講座でサポート隊を募集したら集まってくれるが、公民館サイドで使い切れない実態がある。食育講座をやって、お手伝いで参加したサポート隊が独自に講座を開催したり、企画ができるまではつなげて行きたい。

委員 公民館はどのようなイメージがあるのか。

委員 何をやっているのか分からなかった。

委員 例えば、「ベルブ」で何かやっていると言うことがあるが、公民館でやっていると言うと「えっ」となる。この答申よりも大きな問題となるが「ベルブ」が表に出て、いろんなことをやっていくべきである。

- 事務局 7月に立川市と八王子市の実例を報告したが、今回の答申で「公民館の看板を降ろす」ところまでは踏み込み過ぎる。考え方で共有できるのであれば「終りに」で書いておく。今後の多摩市公民館がどうあるべきか、どこかで一石を投じていかないと議論に火が付かない。新しい利用者が入って来ないことは、委員長・副委員長が追記できればと…。
- 委員 私の知っている人は「ベルブ」・「ヴィータ」と呼んでいる。「公民館」というと何処にあるのと聞かれてしまう。
- 委員 必ずしもネーミングの問題ではなくて、亭主族・サラリーマン族、いわゆる現役世代には関係ない組織であって、その地域に根付いていない。
- 委員長 現役世代が退職する前に吸い寄せられるような場所づくりができるといい。
- 委員 繁盛しているカルチャーでは何万円出しても参加者が一杯いる。そういうものを枠は狭くていいから選んでやる。費用対効果の問題、質の問題は挙げていかないと難しいので、これからは大事である。
- 事務局 サラリーマンが「公民館へ行かない」話しがあったが、公民館を使って、地域のコミュニティが豊かになることは我々が目指すところで、そんな問題意識を持って考える。
- 事務局 公民館に限らず公共施設にはバリエーションがある。一度でも触れてみると自分に必要か選択できるし、触れることによって良さが分かる。まだまだ情報をアクセスして使いこなすことが不十分で、公民館としてはPRが不足している。
- 委員 公民館の「顔」が見えて来ない。イベントのポスターが貼ってあるが、それも行かないとわからない。顔としてイベントを前面に出すのであれば広報活動、HPで紹介する、利用者の声を載せるとか何かシンボライズされたものがあれば見える。
- 委員 コーディネートは外へ出て行く。話して来ると印象に入るので参加者も増えるはずだ。
- 事務局 小学生対象事業は、両館ともチラシを全校配布してターゲットは埋まる。大学との連携では市内・近隣大学とは何かしらのネットワークが出来ている。
- 委員 大学も授業の一部を、公開講座を公民館でやることで若者や一般市民が来る。連携では必ずしも学生ボランティアでなく、先生が講師で来るのではなく、大学そのものが来てしまう。
- 事務局 実例でいくと4月に恵泉女学園大学が必修授業で「お弁当の日」に取り組んでいた。一般市民が入った公開講座をベルブホールで開催したが、参加者が喜んでいたので膨らましていきたい。

事務局 チラシの経済セミナーは、首都大学のオープンユニバーシティ後期講座（4回連続）とほぼ同じ内容である。連携は取っていないが、同じ内容の講座を公民館でやる。

委員長 求職活動している若者の「若者挑戦塾」で英語の授業をしているが、生産の先生曰く「若者に物づくりを教えているが生活力（手でやること）が衰えている」。学校では特別に何かをさせたり、意図的に取り組んでいることはあるか。

委員 昔の遊び（羽根突き、独楽回し）、4泊5日の自然体験教室はナイフで割り箸を削る、箸が出来ないとご飯が食べられない。生活力を全般に高めていくことをしている。低学年でもナイフ作業や小さな折り紙はやらせている。ただ、図工の時間ぐらいしかできない。

委員長 コーディネートのところはどうか。

事務局 出された意見を練って原案を書いて、各委員へは出来上がった時点で送付する。

委員長 原稿は、事業部分は私が整理することになる。何らかの形で館の方へ届けて欲しい。何処に入るかは気にせず書いて欲しい。分割したり、編集作業はあるかも知れないが、チェックできる機会は設ける。

次に、館長からスケジュール説明を…。

事務局 原案作成は今日まで、2月・3月審議会が残っている（3月は答申書の受け渡し）。12月・1月で作業を進める。メール・FAX・郵送でも結構なので、各委員に出された宿題は今月一杯で届けて欲しい。答申案の余白に書いたもの、書き直したもので構わない。事務局で、原案で答申書へ反映させたものを12月前半で作業をする。12月中旬で委員長・副委員長に原案の確認作業をして頂いて、12月中に紙ベースで郵送する。併せて、電子ベースでも送信する。1月中旬までに最終的な意見を寄せて頂く。1月下旬に再度、委員長・副委員長に確認作業をして頂いて、2月審議会で見出しが適正か、項目で抜け落ちていないか、誤字脱字の修正等、最終確認の場とする。

委員長 特になければこれで終了する。

## ② 都公連委員部会報告

委員長 11/8午後、稲城市地域振興プラザで第2回研修があった。

出席者：増永委員長，松尾委員

テーマ「公運審の役割として、今、何が問われているか」

※事例発表（東大和市・国分寺市）、グループ討議、意見交換をした。